

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○6月15日～

先週の為替相場もドル／円は160円をはさんで狭い動きが続きました。

160円台半ばまで戻しているため4月末の介入レートの160.7円と変わらないレベルまで円安が進んでいます。

今週は日米ともに金融政策の発表があるため大きく動くかもしれません。

植田・日銀総裁が入院中ということで、総裁不在のため会見は内田副総裁が行う予定です。

日本は今回利上げを行うという予想がほとんどで、利上げを行っても円安が止まらなかった場合はどうなるのかという心配も出ています。

利上げと介入で円安を止めることができるかどうかです。

すでに米国が年内に利上げを行うという予想になっているため、日本の利上げが遅れればドル高・円安が進むかもしれません。

先週、欧州が利上げを決定しましたが日本以外の国も次々に利上げを行えば円安を止めることはさらに難しくなっていきます。今週はオーストラリア、スイス、英国でも政策金利発表があります。

株価はスペースXのIPOなどで盛り上がりを見せ、再び上昇しています。

先週末はイランと米国の戦闘終結への期待からリスクオン相場となっています。

しかし、期待に反して合意が上手くいかなかった場合は、相場の雰囲気は急激に悪化する可能性もあり、株価は不安定な乱高下が続くかもしれません。

ホルムズ海峡の閉鎖が解除されるか不明なためインフレ懸念もおさまっています。

新体制になったFRBがどのような動きをするのかにも注目したいです。

ウォーシュ氏はFRBの改革に取り組むと意思表示しています。

今回、米国は金利据え置きとの予想なので、大きな波乱はないかもしれません。

米国が利下げではなく、利上げの可能性も出てきたことで、日米欧の金融政策がすべて利上げ方向で動きだしたことでマネーの動きに変化が出てくるかどうかポイントです。

金利が上がってくると株、不動産には悪材料となります。

また、金利がつかない金(ゴールド)にも逆風となる可能性があります。

そして、バブルが弾けそうと言われているAI・半導体関連株は金利上昇にはもともと弱い分野です。

昨年春からかなりの勢いで上昇してきた株が大きな調整局面に入るリスクが高まっています。

クロス円は、株価の動きに連動して下がる可能性があるためリスク回避的な動きが強まれば警戒が必要になります。

19日は、米国はジュンティーンズ・デーで休場となっています。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

<ドル／円>

先週も160円付近でほとんど動きがなくなっています。

161円台は2024年の夏に介入が入ったレートなので、161円あたりまで上昇してくると介入リスクが高まります。

高値買いは避けて、下落するまで買いは待った方がよさそうです。

下値は先週安値の159.5円を割り込んでくると158円あたりまで下げてくる可能性があります。

158円台を維持している間は強い動きが継続しそうです。

日銀の利上げや介入で相場が急変するリスクがあるためレバレッジなどは低めにしてリスク管理を徹底したいです。

大きく下落する場面があれば、買いを検討したいです。

<気になるクロス円>

クロス円は動きがバラバラです。ユーロやポンドはじわじわと上昇してきました。

豪ドルは週足でチャートの形が頭打ちになれば、下げに転じるリスクが出てきます。

カナダドルも日足、週足ともにチャートの形が悪く、下落リスクがあるので買いは様子見がよさそうです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では日銀金融政策決定会合、内田・日銀副総裁会見、5月貿易統計、4月機械受注、5月全国消費者物価指数、日銀・金融政策決定会合議事要旨などがあります。

米国では6月ニューヨーク連銀製造業景気指数、5月鉱工業生産、6月NAHB住宅市場指数、5月住宅着工件数、5月小売売上高、5月住宅販売保留指数、FOMC政策金利、ウォーシュ・FRB議長定例会見、前週分新規失業保険申請件数、6月フィラデルフィア連銀製造業景気指数、5月景気先行指標総合指数、4月対米証券投資などが発表されます。

欧州ではドイツとユーロ圏で6月ZEW景況感調査、ユーロ圏でラガルド・ECB総裁発言、4月鉱工業生産、5月消費者物価指数などがあります。

ほかには、オーストラリア、スイス、英国で政策金利、ニュージーランドで1-3月期GDP、英国で5月消費者物価指数、英中銀金融政策委員会(MPC)議事要旨の発表などがあります。